

## ラグビーの魅力とは

ラグビーワールドカップ日本大会が開催中です。日本代表チームの活躍もあり、日本中が盛り上がっています。ラグビーのもつ魅力について、考えてみたいと思います。

### 代表選手の多様性

サッカーや野球、バスケットボールなどのナショナルチームは、基本的にその国（日本であれば日本）の国籍を持っている選手で構成されます。中国で行われたバスケットボールのワールドカップでは、日本代表チームに、かつてアメリカで活躍していた選手が日本国籍を取得して参加していました。

### その国出身

3年以上継続して居住。または通算して10年にわたり居住。以上3つのうちどれか1つを満たしていれば代表入りできます。今回の日本代表31人中15人が「外国人選手」です。

### ポジションの多様性

ラグビーではポジション別に、それぞれの役割があります。ですので、たとえば体格が劣っている、俊敏性に優れている、多少足が遅くても屈強な体を持っている、キックが上手、背が高いなど、それぞれの体格・能力にふさわしいポジションがあります。誰にでも、自分にあつたポジションがある、それがラグビーの魅力です。

ところが、ラグビーの場合、国籍にとらわれない独自の選考基準があります。その基準とは、1 出生地がその国 2 両親、祖父母のうち1人が

他の競技で一部の心無いファンあるいは選手・スタッフが、他国を貶めた、差別的な行為・発言を行ったなど、残念な報道に触れることがあります。ラグビーのような代表チームの考え方は、そうした問題に対するひとつの回答ともいえるのではないのでしょうか。

### ノーサイドの精神

これこそが、ラグビーの最大の魅力ではないでしょうか。ノーサイドとは、敵味方

なしの意味で、試合が終わったら両軍のサイドがなくなつて、同じ仲間であるという精神に由来します。

試合中は激しく当たりあい、けがをすることもありますが、ノーサイド

になれば互いの健闘をたたえあいます。今回のワールドカップでも、すべての試合でそうした光景を見ることができました。

ちなみに、現在のラグビーは機能が重視されて襟付きのものは姿を消しましたが、かつては、ほとんどが襟付きのジャージでした。それは、試合終了（ノーサイド）後、敵味方関係なく「パブ」にすぐに飲みに行けるように、ジャー

もちろん、現在行われている15人対15人のゲームです。ところが、これは、正確には「ラグビーユニオン」といって、世界にはもう1つ、「ラグビーリーグ」という競技が存在します。

ラグビーリーグ（以下リーグ）はイギリスで、19世紀後半にラグビーユニオン（以下ユニオン）から分かれる形で誕生しました。大きな違いは1チーム13人であること、モ

ウトなし、スクラムは形式的で、ユニオンよりもスピーディーで、見て面白くなるようにルールを変えていったとのことです。イングランド北部や南太平洋諸国、オーストラリア東部、ニュージーランド南部ではユニオンよりも人気があるそうです。

ラグビーという競技は2つある？ 私たちがラグビーと聞いて思い浮かべるのは、

リーグの起源には、当時の労働者階級がおかれていた立場、ユニオンの厳格なアマチュアリズムなど、たいへん興味深い要因があるのですが、今回は割愛させていただきます。



ラグビーの激しい試合の瞬間